

平成 23 年 4 月から、小学校において新学習指導要領が全面実施されます。新学習指導要領では、児童の言語活動の充実を方針として掲げています。その実現への取組のひとつとして「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り，児童の主体的，意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」を挙げています。

これまでも国語の教科書に児童書が紹介されていましたが、23 年度からはさらに多くの本が紹介されるようになりました。

今回の『ぷらたなす』では、小学校 1 年生と 2 年生の国語教科書に紹介されている本をリストにしました。学校ではどのような本を子供たちに薦めているかを知り、図書館での選書や小学校への支援活動の参考にいただければ幸いです。今後 3・4 年生、5・6 年生についてもリストの作成を予定しております。

目 次

1	はじめに	2
2	国語教科書に紹介された本	3
	種類別冊数 / 出版社別冊数	
3	1 年生の国語教科書紹介本のリスト	5
4	2 年生の国語教科書紹介本のリスト	12

はじめに

小学校の国語の教科書は、学校図書、教育出版、三省堂、東京書籍、光村図書出版の5社から発行されています。どの教科書も子供達に向けて、具体的な絵本や物語を紹介しています。多くが本の表紙のカラー写真を掲げ、その横に書名と著者名を記しています。「わたしのほんだな」といった読書の欄をあちこちに設けたり、單元ごとに同じテーマや同じ作者など関連のある本を下段に並べている教科書もあります。巻末にブックリストを付したり、本の内容を丁寧に説明しているものもあり、各社が本の楽しさを子供たちに伝えようと工夫しています。

5社で紹介された本は、1年生では195冊にのぼります。そのうち重複している本をのぞくと全175点の本が紹介されています。2年生では358冊、331点が紹介されています。重複している本は全体の1割と大変少なく、各社独自の選書をしています。

また種類別に見ると、1年生では絵本が半数の51%を占め、ついでノンフィクションが18%、物語が14%、詩・言葉遊びが9%、昔話や神話が8%となっています。新学習指導要領の国語科の内容では、事物の仕組みや科学的な本を読むこと、また伝統的な言語文化として昔話や神話が挙げられているため、ノンフィクションと昔話・神話が多数紹介されています。

2年生では絵本が33%に減り、物語が17%に増えていますが、絵本の占める割合の方がまだ高い状況です。ノンフィクションは23%、昔話・神話が19%、言葉遊びが8%と1年生と同様の割合といえます。